

慣用色名の認識について (第1報)

女子大生の認識

盛田真千子・香川幸子

The Recognition of Color Names (Part 1)
By Female University Students

Machiko Morita・Sachiko Kagawa

Bunka Women's University

Abstract

Color names pose a problem of awareness because there is a difference in recognition of colors, even if they have the same color name, and because some colors cannot be recognized, influenced by a gap in time, generation and daily circumstances. In this study, we examined the color range where color names can be recognized in our modern sense and various factors affecting such recognition based on a survey covering women's university students.

The survey was carried out in a way of selecting from the proposed 153 color chips the one conforming to each of 105 color names extracted from "JIS Z 8102". As a result, the color names were roughly divided into the following three categories: color names recognized (66.7%); color names recognized vaguely (16.2%); color names not recognized (17.1%). In addition, after making a comparison between all the color names' reaction range and JIS values, 11.4% of the persons surveyed showed a reaction to the color range different from JIS values. They tended to react to the color range with higher chroma than JIS values.

As the result of the factor analysis of the lifeawareness survey (18 items) carried out simultaneously, 8 factors were selected. We examined the influence of each factor's different score recorded by every person surveyed upon recognition of color names, however there was no remarkable change at all.

The name of colors for use in cosmetics and package color are believed to affect the recognition of color names. Also in the survey's findings, reaction colors are in accordance with colors used in cosmetics, and a stronger reaction to package color with high chroma than original colors tended to be observed. On the other hand, it is pointed out that warm colors can be memorized more easily than cold colors, and this time's survey also proved that the former are recognized more easily than the latter.

要旨

慣用色名は時代差, 世代間差, 生活環境などの影響を受け, 同一色名でも色差が生じたり認識できなくなるという問題点がある。本研究は今日の社会で慣用色名がどのような色域で認識されているのか, また, その認識に影響を及ぼす諸要因について, 女子学生を対象にした調査から検討した。

調査は J I S Z 8102から選出した 105 語の慣用色名に対し、提示した色票 (153色) から該当する色票を抽出する方法で行った。その結果、認識されている色名 (66.7%), あいまいな色名 (16.2%), 認識されない色名 (17.1%) に大別できた。また、認識されている色名の反応色域を J I S 値と比較した結果、やや異なった色域に反応を示したものが 11.4% あり、これらは主に J I S 値より高彩度に反応する傾向がみられた。

同時に行った生活意識調査 (18項目) の因子分析結果では 8 因子が抽出された。各因子に対する被調査者の因子得点差から、色名の認識に与える影響を調べたが、顕著な差は認められなかった。

顔料に用いられる色名やパッケージの色は、慣用色名の認識に影響を与える要因と考えられる。調査結果でも反応色は顔料の色名の色と一致し、また、本来の色より彩度が誇張されるパッケージの色に反応する傾向がみられた。一方、記憶色として暖色系は寒色系より覚えがよいとされるが、今回の結果においても暖色系の色名は認識されやすい傾向があった。

1. 緒言

物の充足した現在の日本は成熟化社会と言われ、ファッション、ライフスタイルなどさまざまな分野で多様化個性化が進展し、感性の豊かさが求められている。またそれに伴いこれまでになく色の重要性が増している。

19世紀以降、色は合成染料の発見や発達に伴い、多種多量に作られることが可能になった。色の表示、伝達方法も測色技術が発達し高度化されてきた。そのなかで慣用色名は、色を表す方法として古くから使用され、今日でも日常生活のみならずファッション界をはじめ各種企業で色の伝達、商品のイメージアップの手段として盛んに使われ、慣用色名でなければ果たせない役割がみられる。しかしその反面、色名と色が結びつかなくなったり、色名が同じでも生活が変化するなかで、該当する色域の認識に相違がみられ、正確に伝えるという点では他の方法に比べ劣っている。慣用色名の認識は、生活意識や環境、さらに時代の変遷による影響を受けるものであり、同時代においては生活環境、又は世代間差が大きな要因になるものと考えられる。そこで今回は女子学生を対象に慣用色名の認識の調査を実施し、J I S Z 8102の色の三属性による表示記号値 (以下 J I S 値と称する) と比較を行いながら、慣用色名に対しどのような認識がされているかを生活環境との関連も含め探ってみた。

2. 調査方法

調査は質問紙調査法により 1988年10月に実施した。調査対象者は 18~19才の首都圏在住の女子大生 179 名である。

調査は慣用色名に対し、該当する色をカラーチャートから選出する方法で行った。調査に用いた慣用色名は、「物体色の色名」J I S Z 8102¹⁾ でとりあげられている色名の 62.5% にあたる 105 語である (表 1)。カラーチャートは有彩色 144 色、無彩色 9 色の 153 色で構成されており、調査時の光源は C 光源に近くなるよう配慮した。また慣用色名の色が認識できないものに対しては×印を記入してもらった。

一方、女子学生の生活意識を知るための調査も行い、日ごろの関心事、生活態度に対する考えや興味、嗜好色などについて 18 の質問項目を設問し 5 段階評価法で問うた。

3. 集計及び解析方法

慣用色名の認識については、105語に対し 153色のどの色票に反応しているか、単純集計を行った。また 153色の各色票の修正マンセル値を、日本電色 S Z-Σ80 で測色した (表 2)。一方、生活意識では各項目に対し、1~5 の評定尺度値を与え、その結果をもとに因子分析 (主因子法、バリマックス回転、固有値 1.0 以上) で基本的因子を抽出した。また得られた各因子における因子得点も求めた。

4. 結果及び考察

4.1 慣用色名の反応色域

単純集計結果から、修正マンセル値による 105 語の慣用色名それぞれの反応色域図を作成した (図 1-3)。図はたてが反応値 (%), 横が反応色の三属性で、色相、明度、彩度の順に反応値をプロットした。また図下部に J I S Z 8102 の慣用色名表示値をプロットし、反応色域と J I S 値を比較できるよう配慮した。図左部 () の数字は被調査者の回答不可能の割合を示したものである。それらをもとに、調査を行った 105 語の色名は下記の 3 つに大別できた。

- ① 慣用色名の色域が認識されている色名
- ② 慣用色名の色域があいまいな色名
- ③ 慣用色名の色域が認識されていない色名

① の色域が認識されている色名は 70 語で、これは調査用語の 66.7% にあたる (図 1)。図 1-A の色名は色域の認識度が高く、B はそれに準ずる色名である。A に属する色名は図 1 上段の山吹色タイプで、反応の色域が特定の色に 35% 以上集中して反応し、回答不可能の割合が小さいものである。また B に属する色名は図 1 下段若草色タイプで、反応の色域が分散せず三属性のいずれにもやや集中する傾向がみられるもの、または J I S 値に近

いところで20%以上集中反応し、回答不可能の割合が多くないものである。

②の色域があいまいな色名は17語で、調査用語の16.2%にあたる(図2)。この分類基準は、ききょう色で見られるように反応の色域が三属性のどれかの属性にやや集中してあらわれているもの、または回答不可能の割合が半数に満たないものを色域のあいまいな色名とした。

③の色域が認識されていない色名は18語で、調査用語の17.1%にあたる(図3)。図3-Dの色名は認識が低く、Eはほとんど認識されない色名である。Dの基準は図3上段タイプで反応が低く、その反応も分散してあらわれているもの、または回答不可能な割合が多いもの、Eは回答不可能の割合が大変高い80%以上のものとした。

4.2 慣用色名の反応色域とJIS値の比較

図中(1~3)の各グループ(A~E)を、さらにタイプ別に顕著な反応順、または反応の傾向別に分類した(表3-1A.2A.1B.2B.3B.1C.2C.1D.1E.)。表

表1 慣用色名

ローズ	金茶
ストロベリー	卵色
さんご(珊瑚)色	山吹色
ピンク	ベージュ
桃色	黄土色(イエロ-オカ)
紅梅色	セピア
紅(べに)色	カーキー
ベビーピンク	ひまわり色
えんじ	ブロンド
すおう(蘇芳)	象げ(牙)色(アイボリー)
あかね(茜)	からし(芥子)色
朱色(ハニワ)	クリーム色
スカーレット	たんぽぽ色
サーモンピンク	カナリヤ色
あずき(小豆)色	オリーブ
えび(蝦)茶	レモン色
かき(柿)色	うぐいす(鶯)色
かば(樺)色	まっ(抹茶)茶色
れんが(煉瓦)色	こけ(苔)色
さび(錆)色	オリーブグリーン
チョコレート色	若草色
ココア色	もえぎ(萌木、萌黄)
くり(栗)色	草色
たいしゃ色	コバルトグリーン
ピーチ	エメラルドグリーン
らくだ色	緑青(ろくしょう)色
肌色	青磁色
だいたい(ワッ)	青竹色
茶色(ブラウン)	鉄色
焦げ茶(バーンアンバー)	ピーコックグリーン
あんず(杏)色	新橋色
みかん(蜜柑)色	あさぎ(浅葱)
かっ(褐)色	なんど(納戸)色
小麦色	ターコイズブルー
こはく色(アパ)	シアン

3-1A~1Eは反応が高い順である。特定の1色もしくはその色に類似したものに集中度が高い傾向にあるもの、中でも反応色がJIS値に近似した色名を優先にした。これは慣用色名と色みがイメージしやすく、認識されている順とも言える。

特に、表3-1Aの20語の色名は、JIS値の近似色票に高い反応を示し、JIS値に近似した色票に35%以上集中して反応しているものである。また、JIS値を中心にした色域の周辺の色票にも反応はみられたが、その頻度は少ない。元来、色名はある範囲の色域を指すものであるが²⁾、だいたい、肌色、ワインレッド、山吹色、きな(生成)り色、らくだ色、クリーム色、あい(藍)色、朱色(バーミリオン)、ひまわり色などは、イメージする色域に幅がない色名で、色みをかなり正確に伝達できるといえる(図4-1A)。これらの色名は、日常生活の中で色をよくみかけ、用いられる頻度も多く、JIS値の近似色票に高い反応を示した。

表3-2Aの12語の色名の反応は、JIS値の近似色票にはそれほど高い反応はせず、JIS値の色域の周辺の色票に顕著に反応している(図4-2A)。からし(芥子)色などはJIS値は3Y7/6であるが、JIS値近似色票〔4.5Y6.1/6.5(d8)〕

に対する反応が0%に対し、3.3Y7.5/13.3(v8)の高濃度の色票に47.5%の高い反応がみられた。このように墨、レモン色、茶色(ブラウン)、まっ(抹茶)茶色、れんが(煉瓦)色、からし(芥子)色、こけ(苔)色などはJIS値よりやや色域が異なる色が示されていた。

表3-1Bの12語の色名は表3-1Aの反応傾向に準じ、JIS値の近似色票にピークがみられる。ベビーピンク、黄土色(イエロー-オカー)、くり(栗)色、ココア色、卵色、ローズなどであるが表3-1Aほど、そのピークが顕著ではない。

表3-2Bの17語は、色名に対して色をイメージするものの、個人差があり、その反応は表3-1AのようにJIS値近似色票1色への集中ではなく、JIS値の近似色票を中心に近隣する3~4色で平均的に反応している(図4-1B)。空(スカイブルー)、サーモンピンク、なす(茄子)紺、桃色、マリンドブルーなどでこれらは、色名で色を伝達する際、受け

マリンドブルー
水色
空色(スカイブルー)
セルリアンブルー
ベビーブルー
あい(藍)色
つゆくさ(露草)色
コバルトブルー
はなだ色
るり(瑠璃)色
紺(ネビラー)色
ぐんじょう(群青)色
ききょう(桔梗)色
ふじ(藤)色
すみれ色(ワイルド)
はと(鳩)羽色
あやめ
江戸紫
ラベンダー
モーブ
ライラック
古代紫
なす(茄子)紺
紫紺
ばたん(牡丹)色
マゼンダ
とき(鴉)色
桜色
ワインレッド
銀ねず(シルバーグレイ)
きな(生成)り色
利休ねずみ(鼠)
チャコールグレイ
ねずみ(鼠)色
墨

表2 カラーチャート測色値

有 彩 色													無 彩 色
	赤 2-R	赤みの橙 4-r0	黄みの橙 6-y0	黄 8-Y	黄緑 10-YG	緑 12-G	青緑 14-BG	緑みの青 16-gB	青 18-B	青紫 20-Y	紫 22-P	赤紫 24-RP	N
pl	7.0R8.3/3.8	9.9R8.4/3.6	7.7YR8.8/3.0	3.5Y8.7/3.2	1.4GY8.8/3.0	2.6GB.3/2.7	4.3BG.0/2.6	4.8B7.7/3.2	2.2PB7.7/3.9	9.0PB7.6/4.0	6.7P7.8/3.1	4.1RP8.0/4.2	9.7YR9.4/0.3
lt	5.4R7.1/8.1	10.0R7.3/7.4	5.9YR7.8/7.3	3.4Y8.4/7.2	3.4GY7.7/7.0	5.2G7.0/6.8	4.0BG.6/6.2	6.1B6.5/6.0	2.5PB6.3/6.8	8.4PB6.2/7.9	7.5P6.6/6.1	5.8RP6.7/7.8	8.6YR8.4/0.2
b	5.4R6.3/11.3	8.9R6.7/9.8	6.5YR7.5/9.0	4.4Y7.9/9.0	4.2GY7.3/8.9	4.0GB.4/8.5	3.9BG.5/8.3	5.9B5.3/8.3	2.9PB5.0/9.8	8.7PB4.9/10.6	6.1P5.0/11.0	5.1RP5.3/11.0	3.2B7.5/0.1
vv	4.3R4.6/12.4	8.5R5.6/12.9	7.1YR6.8/12.5	3.3Y7.5/13.3	4.0GY6.4/10.9	2.3GB.1/9.7	5.0BG.4.3/8.6	5.6B4.0/8.0	5.5PB4.0/11.3	0.3P4.0/11.6	7.5P4.3/11.4	6.5RP4.3/11.0	7.4B6.5/0.3
	2.0R4.3/11.4	7.1R5.2/13.4	3.0YR6.1/13.3	1.0Y7.1/12.5	7.8Y7.2/11.2	8.5GY5.8/10.0	7.4G4.8/9.7	1.8B4.0/8.1	10.0B3.8/9.5	6.7PB3.9/12.3	4.5P4.1/11.4	1.2RP4.1/12.4	6.7B5.5/0.3
dl	6.4R5.1/6.3	9.7R5.4/7.1	6.8YR5.9/6.2	4.5Y6.1/6.5	4.6GY5.8/5.6	4.3GB.4/5.4	5.2BG.4.9/4.6	5.8B4.5/5.1	3.0PB4.2/5.1	8.4PB4.1/5.8	5.9P4.1/5.8	5.2RP4.2/5.7	6.7B4.6/0.3
dp	6.0R3.7/9.9	9.4R4.5/9.1	6.4YR5.3/9.7	4.2Y5.7/8.7	5.0GY5.3/8.3	4.1G4.3/8.0	3.8BG.3/8.1	5.6B2.9/6.0	5.3PB2.8/9.0	9.4PB3.0/8.5	7.1P3.2/9.3	6.2RP3.3/8.1	5.8B3.7/0.3
dk	7.2R2.7/5.6	0.3YR3.3/5.5	8.0YR3.7/4.4	5.7Y3.6/4.6	4.9GY3.6/4.5	4.0GB.0/5.0	3.8BG.2.7/4.8	0.1B2.1/4.2	3.0PB1.7/4.6	9.2PB2.0/6.9	6.7P2.1/5.7	4.9RP2.4/5.5	1.7B2.7/0.2
vp (_{offw})	8.4R9.0/1.4	3.1YR9.0/1.2	6.4YR9.0/1.1	3.0Y9.0/1.0	0.6GY9.0/0.9	1.0GY8.9/0.7	6.4G9.0/0.5	7.4B9.0/0.4	1.3PB9.0/0.6	9.3PB8.9/1.0	9.6P9.0/0.9	9.2RP9.0/1.4	0.0 0.5/0.0
lg	4.0R7.3/1.7	8.3R7.4/1.7	6.5YR7.5/1.4	4.8Y7.7/1.5	5.5GY7.4/1.5	3.7G7.2/1.2	3.0BG.7.3/1.1	3.8B7.2/1.2	2.7PB7.2/1.7	8.7PB7.1/2.0	6.0P7.1/1.4	4.2RP7.2/1.4	
mg	9.5RP4.6/1.6	0.3YR4.7/1.3	8.3YR4.7/1.2	5.1Y5.0/1.4	4.9GY4.6/1.4	2.9G4.6/1.2	5.0BG.4.5/0.9	4.5B4.6/1.5	3.3PB4.6/1.6	9.0PB4.6/1.6	4.3P4.6/1.7	3.1RP4.6/2.0	
vd	6.3R2.3/1.8	3.1YR2.2/1.9	7.7YR2.2/2.1	4.4Y2.5/2.1	1.7GY2.2/1.9	2.6G2.3/2.7	0.5BG.2.1/1.6	4.7B2.3/1.4	5.0PB2.0/2.3	9.3PB1.8/2.0	6.3P2.3/1.8	8.5RP2.4/1.6	

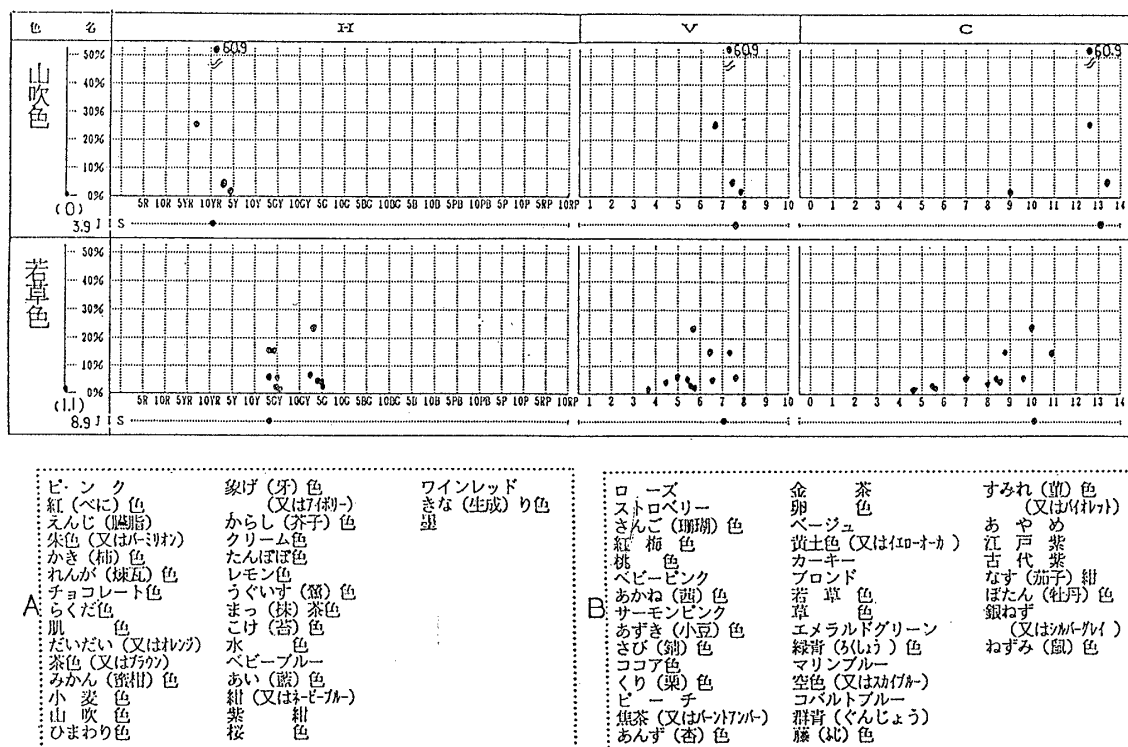


図1 慣用色名の色域が認識されている色名

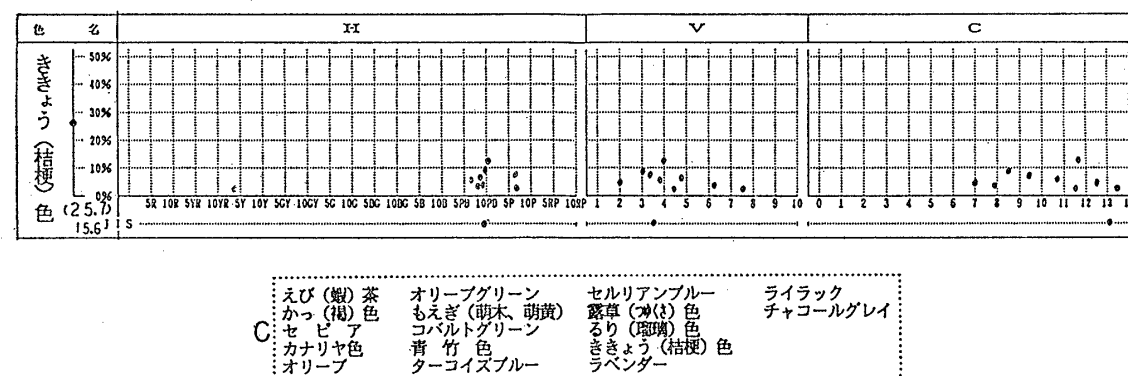


図2 慣用色名の色域があいまいな色名

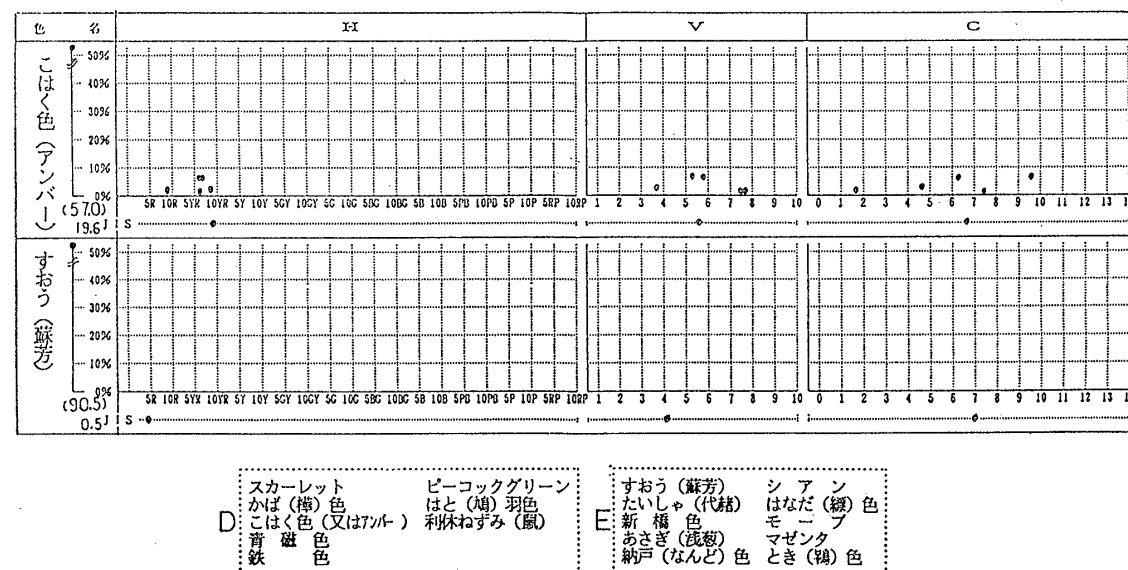


図3 慣用色名の色域が認識されていない色名

表3 慣用色名とその顕著な反応色 (10%以上)

表3-1A

色名 () 由来	反応色の% () PCCのトーンの略号 ※JIS値に近似色 [] 内JIS値に近似色10%未満	10%以下の計 回答不可率
だいだい (わっ) (橘)	83.8%(v5) ※	15.1% 1.1%
肌色 (他)	72.7%(p6) ※ 11.7%(lt6)	15.1% 0.6%
ワインレッド (飲)	64.2%(dp24) ※ 20.7%(v24)	15.1% 0%
山吹色 (橘)	60.9%(v7) ※ 26.8%(v6)	12.3% 0%
きな (生成り) 色 (他)	55.9%(offw6) ※ 13.4%(p8)	17.3% 13.4%
らくだ色 (動)	53.1%(d6) ※ 16.2%(dp6)	24.6% 6.2%
クリーム色 (飲)	52.0%(p8) ※ 17.9%(lt8) 14.5%(offw8)	13.4% 2.2%
あい (藍) 色 (橘)	52.0%(dp18) ※ 16.8%(dk18)	28.7% 2.8%
朱色 (朱) (赤)	51.4%(v3) ※ 20.7%(v4) 13.4%(v2)	5.6% 9.0%
ひまわり色 (橘)	50.3%(v7) ※ 30.7%(v8)	15.0% 4.0%
象牙 (牙) 色 (動)	44.1%(offw8) ※ 32.4%(p8)	15.6% 7.9%
(ア) 小麦色 (橘)	43.6%(d6) ※ 14.3%(dp6)	35.2% 7.2%
ベビーブルー (他)	42.5%(p16) ※ 24.0%(dk18)	20.7% 12.8%
紅 (へに) 色 (橘)	39.1%(v2) ※ 28.5%(v1) 10.1%(dp6)	16.7% 5.6%
えんじ (糖) (動)	39.1%(dp2) ※ 28.5%(dp24)	26.3% 6.1%
かき (柿) 色 (橘)	38.5%(v5) ※ 23.5%(v4) 13.4%(v3)	24.0% 0.6%
みかん (蜜柑) 色 (橘)	37.4%(v6) ※ 31.3%(v5) 25.1%(v7)	6.1% 0%
たんぽぽ色 (橘)	37.4%(v8) ※ 21.8%(lt8) 15.1%(v7) 13.4%(b8)	6.1% 6.2%
桜色 (橘)	36.9%(p24) ※ 23.5%(lt24) 12.8%(p2) 10.6%(offw24)	14.1% 1.7%
うぐいす (緑) 色 (動)	36.3%(d10) ※ 20.1%(dp10)	40.8% 2.8%

表3-2A

墨 (他)	62.6%(N1.0) 21.8%(N2.0) ※	11.7% 3.9
レモン色 (橘)	57.0%(lt8) 18.4%(v8) ※ 10.1%(b8)	7.3% 7.2%
茶色 (ブ) (橘)	55.9%(dk4) 25.1%(dp4) 12.3%(dk6) ※	5.6% 1.2%
まっ (抹茶) 茶色 (飲)	52.0%(dp10) 21.8%(dk10) 16.8%(d10) ※	8.8% 0.6%
れんが (煉瓦) 色 (他)	48.0%(dp4) 20.1%(dk4) 16.8%(dp2) [1.7%(d4) ※]	10.6% 4.5%
からし (芥子) 色 (橘)	47.5%(v8) 18.4%(v7) 15.6%(dp8) [0% (d8) ※]	16.3% 2.2%
こけ (苔) 色 (橘)	45.3%(dk10) 15.6%(dk12) [3.4%(d10) ※]	29.6% 9.5%
水色 (白)	45.3%(lt16) 16.8%(lt18) 16.8%(p16) ※	20.5% 0.6%
チョコレート色 (飲)	44.7%(dk4) 20.1%(dk2) [5.0%(dk2) ※]	34.6% 0.6%
紺 (ネビ) (他)	44.1%(dp18) 37.4%(dk18) ※	15.1% 3.4%
ピンク (橘)	44.1%(lt24) 27.9%(p2) [8.4%(lt2) ※]	71.5% 1.7%
紫紺 (橘)	37.4%(dk20) 19.6%(dk22) ※ 16.8%(dp20)	11.6% 14.6%

表3-1B

ベビーピンク (橘)	33.0%(p2) ※ 27.9%(p4) 12.8%(p24)	24.6% 1.7%
黄土色 (土) (飲)	31.3%(dp8) ※ 25.1%(dp6) 11.2%(d8)	23.5% 8.9%
くり (栗) 色 (橘)	34.6%(dk6) ※ 18.4%(dk4) 13.4%(dp6)	27.4% 6.2%
ココア色 (飲)	27.9%(dk4) ※ 26.3%(dk2) 10.1%(dk2)	34.1% 1.7%
卵色 (動)	26.8%(lt8) ※ 21.2%(p8) 16.2%(offw8)	30.2% 5.6%
ローズ (橘)	34.6%(v1) ※ 27.6%(v24)	35.8% 1.7%
ねずみ (鼠) 色 (動)	24.6%(N5.5) ※ 14.0%(N4.5) 12.3%(g18)	47.4% 1.7%
金茶 (他)	30.2%(dp6) ※ 20.1%(dp8)	18.4% 31.1%
さび (錆) 色 (飲)	20.7%(dk4) ※ 15.1%(dp4) 11.2%(dk2)	35.8% 17.3%
藤 (ふじ) 色 (橘)	22.9%(lt20) ※ 20.1%(lt22)	57.0% 0%
エメラルドグリーン (飲)	24.6%(b12) ※ 12.8%(b14) 12.8%(v13) 12.8%(lt12) 11.7%(v14)	23.1% 2.2%
江戸紫 (地名)	21.8%(dp24) ※	50.8% 27.4%

表3-2B

色名 () 由来	反応色の% () PCCのトーンの略号 ※JIS値に近似色 () 内JIS値に近似色10%未満	10%以下の計 回答不可率
空色(スカイブルー) (自)	1 9.6%(b16) 1 8.4%(b18) 1 7.3%(lt16) 1 5.1%(lt18) 1 4.0%(p16)※	1 3.9% 1.7%
サーモンピンク (動)	2 7.9%(lt2) 1 8.4%(lt4)※ 1 4.0%(b2) 1 3.4%(p4) 1 0.1%(p2)	1 4.5% 1.7%
なす(茄子)紺 (植)	3 3.0%(dk22) 2 1.8%(dk20) 1 2.8%(dp22) 1 1.7%(dp20) [0.6%(dkg22)※]	1 3.4% 7.3%
桃色 (植)	2 4.6%(lt24) 2 4.0%(p2) 1 7.9%(lt2)※ 1 1.7%(p24)	2 1.2% 0.6%
マリンプルー (自)	2 5.7%(b18) 1 9.6%(b16) 1 9.6%(v18) 1 2.3%(v17) [7.3%(v16)※]	2 0.5% 2.3%
あずき(小豆)色(植)	3 2.4%(dp24) 2 5.7%(dp2) 1 9.0%(dk2)※	2 2.3% 0.6%
ピーチ (植)	2 8.5%(lt2) 1 6.2%(p4) ※ 1 4.5%(lt4) 1 4.0%(p2)	2 4.6% 2.3%
焦茶(トントアンバー) (植)	2 2.9%(dk6) 2 0.1%(dkg6) 1 1.7%(dk4) 1 0.6%(dkg6) ※	1 2.3% 2.2.4%
すみれ(蜜)色 (植)	2 0.1%(b22) 1 3.4%(v20) 1 1.7%(v22) 1 0.1%(b20) [9.5%(v21) ※]	4 3.6% 1.1%
若草色 (植)	2 3.5%(v11) 1 5.6%(v10)※ 1 5.6%(b10)	4 4.2% 1.1%
あかね(茜)色 (植)	2 3.5%(v3) 2 2.9%(v2) ※	3 3.0% 2 0.7%
コバルトブルー (鉾)	2 6.8%(v18) 1 9.0%(v17) [7.8%(b18)※]	3 9.2% 1 5.0%
ブロード (他)	1 7.3%(b8) 1 1.7%(lt8)※ 1 0.6%(dk6)	2 9.7% 3 0.7%
あやめ (植)	1 5.6%(dp22) 1 2.3%(v22) 1 0.6%(v20) [7.3%(v21)※]	4 5.3% 1 6.2%
銀ねず(シルバー) (鉾)	1 4.5%(N75) 1 0.6%(ltg22) 1 0.6%(ltg24) [6.1%(N65)※]	5 5.4% 8.9%
ぼたん(牡丹)色(植)	2 0.7%(dp24) 1 1.7%(v24)※	3 3.5% 3 4.1%
古代紫 (他)	1 3.4%(dp22) 1 2.3%(dk22)※	3 5.2% 3 9.1%

表3-3B

草色 (植)	2 2.3%(v12) 1 9.6%(v10) 1 6.2%(v11) 1 0.1%(dp12) [6.1%(d10)※]	3 1.2% 0.6%
ページュ (動)	3 0.7%(dk6) 1 7.3%(p8) 1 4.0%(dk8) [6.7%(p6) ※]	3 2.4% 5.6%
緑青(みどり)色 (鉾)	3 3.5%(v14) 1 2.3%(v15) 1 0.6%(dp14) [1.7%(d12)※]	3 0.8% 1 2.8%
あんず(杏)色 (植)	2 0.1%(v4) 1 2.3%(v5) 1 1.7%(v3) 1 0.1%(v6) [0%(lt6)※]	3 6.9% 8.9%
カーキ (鉾)	2 2.3%(dp8) 1 4.0%(v8) 1 0.6%(dk8) [7.3%(dk8) ※]	3 5.8% 1 7.3%
紅梅色 (植)	2 5.1%(v1) 1 9.6%(v2) [1.7%(lt2)※]	4 3.6% 1 1.1%
ストロベリー (植)	2 6.8%(lt24) 1 7.9%(v1) ※ 1 7.9%(v2) 1 0.6%(b24)	2 4.6% 2.2%
さんご (動)	1 6.8%(lt2) 1 6.8%(p2) 1 2.3%(p24) 1 0.6%(p4) 1 0.6%(b2) ※	2 9.6% 3.4%
群青(ぐんじょう)色 (鉾)	2 5.1%(dk18) 2 0.1%(dp18) 1 0.1%(v19)※	3 8.0% 6.7%

表3-1C

青竹色 (植)	1 8.4%(v13) 1 2.3%(dp12) [1.1%(lt14) ※]	5 4.2% 1 5.1%
えび(蟹)茶 (動)	1 5.6%(dp4) 1 2.8%(dp2) [7.8%(dk2)※]	4 2.5% 2 9.1%
コバルトグリーン (鉾)	1 4.0%(v13) 1 3.4%(v14) [8.4%(b12)※]	5 6.4% 1 6.2%
カナリヤ色 (動)	1 8.4%(lt8) [8.9%(b8) ※]	4 8.8% 3 3.0%
ききょう(梅橘)色(植)	1 2.8%(v20) [7.3%(v19)※]	6 1.5% 2 5.7%
セルリアンブルー (他)	1 1.7%(b16)※	4 3.6% 4 4.7%
オリーブ (植)	1 1.2%(v9) [4.5%(dk8)※]	4 1.9% 4 6.9%
ラベンダー (植)	1 0.6%(lt22) ※	6 3.7% 2 5.7%
ライラック (植)	1 0.6%(p22) [8.9%(lt22) ※]	3 6.4% 5 3.0%

表3-2C

オリーブグリーン (植)	[8.9%(dk10) ※]	7 6.6% 2 3.4%
セピア (動)	[0%(dkg6) ※]	7 6.5% 2 3.5%
チャコールグレー (他)	[7.3%(N24) ※]	7 3.7% 2 6.3%
かっ(梶)色 (他)	[6.7%(dk6) ※]	6 7.0% 3 3.0%
もえぎ(萌木萌黄) (植)	[0.6%(b10) ※]	5 9.3% 4 0.7%
るり(瑠璃)色 (鉾)	[5.6%(v18) ※]	5 5.3% 4 4.7%
ターコイズブルー (鉾)	[9.5%(b16) ※]	5 2.5% 4 7.5%
薔草(つゆくさ)色(植)	[1.1%(v20) ※]	5 2.5% 4 7.5%

表3-1D

色名 () 由来	[] JIS 値に 近似色 10% 未満	10% 以下の計 回答不可率
鉄色 (鉄)	[0% (dk14) ※]	51.9% 48.1%
利休ねずみ (鼠) (人)	[3.4% (N5) ※]	48.0% 51.4%
こはく色 (アザリ) (鉄)	[7.8% (d6) ※]	43.0% 57.0%
はと (鳩) 羽色 (動)	[0.6% (d22) ※]	43.0% 57.3%
かば (樺) 色 (植)	[1.7% (dp2) ※]	39.1% 60.9%
青磁色 (他)	[0.6% (d12) ※]	36.9% 63.1%
スカーレット (他)	[1.1% (V3) ※]	31.9% 68.1%
ピーコックグリーン (動)	[1.7% (v13) ※]	27.4% 72.6%

() 内は色名の由来の略 (植) 植物 (動) 動物 (鉄) 鉄物 (飲) 飲食物 (地) 地名 (自) 自然現象 (人) 人名 (他) その他

表3-1E

色名 () 由来	[] JIS 値に 近似色 10% 未満	10% 以下の計 回答不可率
納戸 (なんど) 色 (他)	[0.6% (d16) ※]	17.3% 82.7%
あさぎ (浅葱) (植)	[0.6% (b16) ※]	16.8% 83.2%
とき (鶉) (動)	[0.6% (lt24) ※]	14.0% 86.0%
モーブ (他)	[0.6% (dp22) ※]	10.0% 90.0%
すおう (蘇芳) (植)	[1.1% (d2) ※]	9.5% 90.5%
シアン (鉄)	[0% (v15) ※]	9.5% 90.5%
新橋色 (地名)	[0% (lt16) ※]	8.4% 91.6%
マゼンタ (地名)	[1.7% (v24) ※]	7.3% 92.7%
たいしゃ (代赫) 色 (鉄)	[1.1% (dp2) ※]	5.6% 94.4%
はなだ (緩) 色 (他)	[0% (d18) ※]	4.4% 95.6%

色名の JIS 値	反応色の HV/C. () PCCS トン	10% 20% 30% 40% 50%
だいだい (だいだい) SYR 6.5/13	3.0YR6.1/13.3 (v5)	JIS 83.8
肌色 SYR 8/5	5.9YR7.8/7.3 (p6) 7.7YR8.8/3.0 (lt6)	JIS 72.7
クリーム色 SY 8.5/3.5	3.5YR7.3/3.2 (p8) 3.4YR4.7/2.2 (lt8) 3.0YR0.1/0.0 (offw8)	JIS
朱色 (ベニシロ) 6R 5.5/14	7.1R5.2/13.4 (v3) 8.5R5.6/12.9 (v4) 4.3R4.6/12.4 (v2)	JIS
桜色 10RP 9/2.5	4.1RP8.0/4.2 (p24) 5.8RP6.7/7.8 (lt24) 7.0R8.3/3.8 (p2) 9.2RP9.0/1.4 (offw24)	JIS

図4-1A

レモン色 8Y 8/12	3.4YR4.7/2.2 (lt8) 3.3Y7.5/13.3 (v8) 4.4Y7.9/9.0 (b8)	JIS
まっ (抹茶) 茶色 2GY 7.5/4	4.1G4.3/8.0 (dp10) 4.0G3.0/5.0 (dk10) 4.3G5.4/5.4 (d10)	JIS 3.4%
水色 6B 8/4	6.1B6.5/6.0 (lt16) 2.5PB6.3/6.8 (lt18) 4.8B7.7/3.2 (p16)	JIS
こけ (苔) 色 2.5GY 5/5	4.9GY3.6/4.5 (dk10) 4.0G3.0/5.0 (dk12) 4.6GY5.8/5.6 (d10)	JIS 3.4%
からし (芥子) 色 3Y 7/6	3.3Y7.5/13.3 (v8) 1.0Y7.1/12.5 (v7) 4.2Y5.7/8.7 (dp8) 4.5Y6.1/6.5 (d8)	JIS 0%

図4-2A

図4 慣用色名の反応 (10%以上のみ)

色名の JIS 値	反応色の HV/C. () PCCS トン	10% 20% 30% 40% 50%
耳色 3CY 5/5	2.3G5.1/9.7 (v12) 4.0GY6.4/10.9 (v10) 8.5GY5.8/10.0 (v11) 4.1G4.3/8.0 (dp12) 4.6GY5.8/5.6 (d10)	JIS 6.1%
ページ 10YR 7/2.5	6.8YR5.9/6.2 (d6) 3.5YR7.3/3.2 (p8) 4.5Y5.1/6.5 (d8) 7.7YR8.8/3.0 (p6)	JIS 6.7%
カーキ 1Y 5/5.5	4.2Y5.7/8.7 (dp8) 3.3Y7.5/13.3 (v8) 5.7Y3.6/4.6 (dk8) 4.5Y6.1/6.5 (d8)	JIS 7.3%
紅梅色 2.5R 6.5/7.5	2.0R4.3/11.4 (v1) 4.3R4.6/12.4 (v2) 5.8R7.1/8.1 (lt2)	JIS 1.7%

図4-1B

若草色 3CY 7/10	8.5GY5.8/10.0 (v11) 4.0GY6.4/10.9 (v10) 4.2GY7.3/8.9 (b10)	JIS
桃色 2.5R 6.5/8	5.8RP6.7/7.8 (lt24) 7.0R8.3/3.8 (p2) 5.8R7.1/8.1 (lt2) 4.1RP8.0/4.2 (p24)	JIS
サーモンピンク 8R 7.5/7.5	5.8R7.1/8.1 (lt2) 10.0R7.3/7.4 (lt4) 5.8R6.3/11.3 (b2) 9.8R8.4/3.6 (p4) 7.0R8.3/3.8 (p2)	JIS
空色 (スカイブルー) 9B 7.5/5.5	5.9B5.3/8.3 (b16) 2.9PB5.0/9.8 (b16) 6.1B6.5/6.0 (lt16) 2.5PB6.3/6.8 (lt18) 4.8B7.7/3.2 (p16)	JIS

図4-2B

表4 JIS 値と色域の異なる慣用色名

色名	逸れた方向 (※は顕著)
からし (芥子) 色	高彩度 ※
まっ (抹茶) 茶色	高彩度、低明度
れんが (煉瓦) 色	高彩度
水色	高彩度
チョコレート色	高彩度
紺 (ネビール) 色	高彩度
草色	高彩度 ※
ベージュ	やや高彩度、低明度
緑青 (ろくしょう) 色	高彩度 ※
あんず (杏) 色	高彩度 ※
カーキ	やや高彩度
紅梅色	高彩度 ※
レモン色	低彩度 ※
さんご	低彩度 ※
群青 (ぐんじょう) 色	低彩度、低明度
ストロベリー	やや低彩度
茶色 (チカ)	色相赤み
ピンク	色相赤紫み
紫紺	色相青み
墨	低彩度 ※
こけ (苔) 色	低彩度

取る相手によってイメージする色みの色域に幅がみられる。

表3-3Bの草色、ベージュ、緑青(ろくしょう)色、あんず(杏)色、カーキなど9語は表3-2BよりさらにJIS値の近似色票への反応が低く、JIS値からやや離れたところで色域に広がりをもって反応している(図4-2B)。

表3-1C, 2Cは色名に対してJIS値とかけ離れた色みに反応し、また集中する色票も少なく、色名と色みが認識しにくい傾向がみられる。1Cでは青竹色、えび(蝦)茶、コバルトグリーンなど、2Cではオリーブグリーン、セピア、チャコールグレー、かっ(褐)色などがこれに含まれる。

表3-1D, 1Eは色名から色をイメージしにくく、回答不可能の割合が多数を占めた色名である。1Dでは

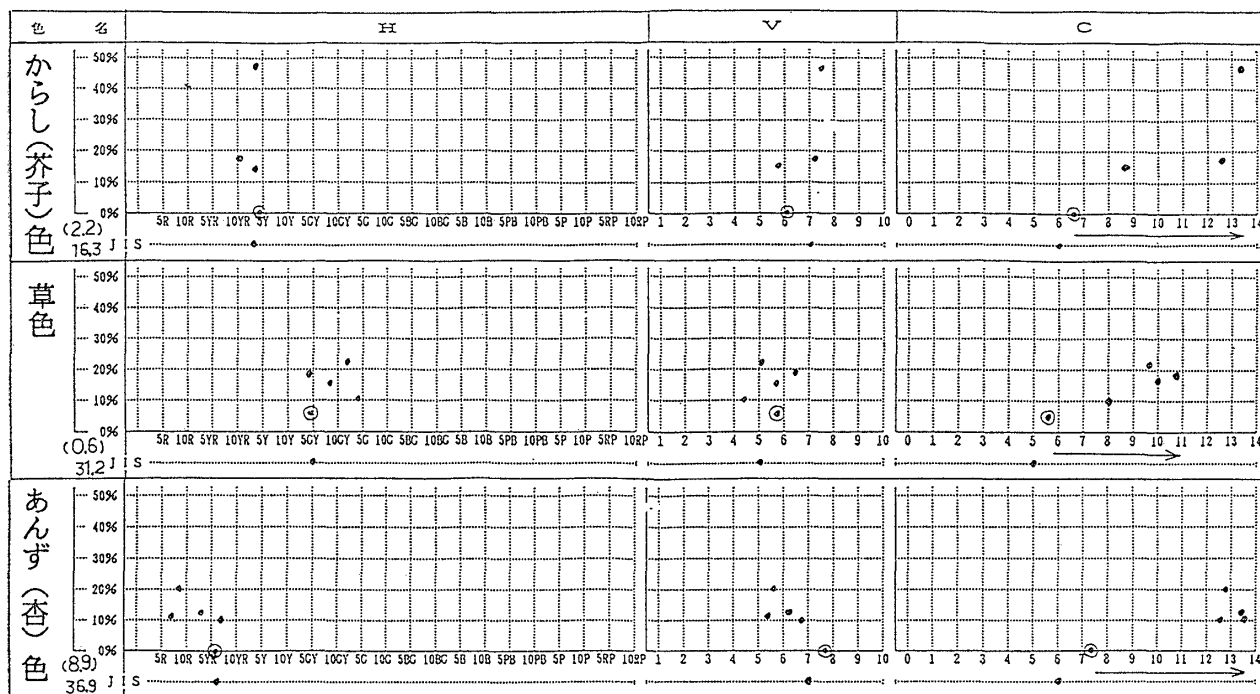


図5-A

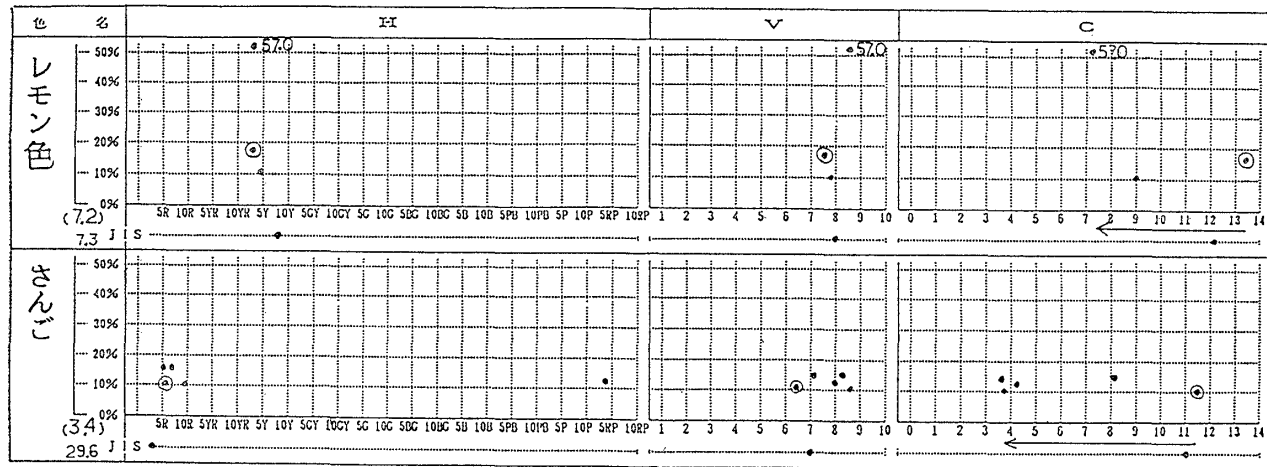


図5-B

図5 反応色とJIS値の比較

鉄色, 利休ねずみ (鼠), こはく色 (アンバー), はと (鳩) 羽色など, 1Eでは納戸 (なんど) 色, あさぎ (浅葱), とき (鶉) 色, モーブなどが含まれる。これらは伝統色名や染色, 印刷業界で用いられる色名で, 一般には全く色名と色みが結びつかなくなり, 認識されていない色名である。

4.3 J I S 値と色域の異なる慣用色名

105 語の慣用色名に対する反応色を J I S 値と比較した結果, J I S 近似色票に高い反応がみられた色名と,

反応は高いが J I S 値とやや異なった色票に反応を示しているものがあつた。そこで J I S 値よりやや異なった色域に反応した色名 (表 3-2 A, 3 B) の 21 語について, その特徴をみる。

表 4 は表 3-2 A, 3 B の色名が, 三属性のどの属性に異なりが大きいかを, まとめたものである。またその顕著な色名を図にしたのが図 5-A・B である。図 5-A は J I S 値より高彩度に高い反応した, からし (芥子) 色, 草色, あんず (杏) 色で, これほど顕著ではないが

表 5 因子分析結果

因子	項 目	固有値	因子名	寄与率 (%)
1	1 日本に古くから伝わる風俗や習慣に関心がある 2 外国の文化に関心がある 3 手工芸的な織物や染色に関心がある	1.88	文化的関心性	10.5
2	4 好きな色は明るい色より暗い色である 5 好きな色は派手な色より地味な色である 6 好きな色は暖色系の色より寒色系の色である	2.11	色彩嗜好性	11.8
3	7 人工的なものが好きである 8 化学繊維は便利であるのでよく使う	1.49	人工的志向性	8.1
4	9 新しい物には興味をもつ 10 物事には積極的に取り組むタイプである 11 季節の移り変わりに敏感である	1.62	積極的活動性	9.0
5	12 性格は慎重派である	1.20	慎重性	6.7
6	13 旅行にはよく行く 14 政治・経済の動きに関心がある 15 読書はよくする	1.39	情報行動性	7.7
7	16 テレビのコマーシャルをおもしろいと思うことがよくある 17 花や木など植物に関心がある	1.48	社会的関心性	8.2
8	18 鳥や動物に関心がある	1.23	動物への関心性	6.9
累 積 寄 与 率 (%)				68.9

表 6 各項目の因子負荷量

NO	1 因子	2 因子	3 因子	4 因子	5 因子	6 因子	7 因子	8 因子
1	0.812621	0.053012	0.081810	-0.043140	0.054839	-0.056568	0.154096	-0.035075
2	0.622907	-0.049795	-0.259602	-0.243102	0.028112	-0.136848	-0.129291	-0.149169
3	0.604767	-0.186806	0.049599	-0.021850	-0.308084	0.359716	0.006102	-0.146544
4	-0.006766	-0.893541	-0.010556	0.013040	-0.075938	-0.045034	-0.048885	-0.012630
5	0.052224	-0.885690	0.051600	0.044346	-0.143485	0.006433	0.042720	-0.036736
6	-0.026598	-0.634554	-0.145646	-0.245035	0.286618	0.183343	0.080606	-0.189412
7	-0.077958	0.047715	-0.843871	0.038599	0.002897	-0.058566	-0.100849	-0.036943
8	0.130305	-0.095289	-0.722609	0.000881	0.018727	0.041442	0.277664	0.110326
9	-0.024475	-0.007858	0.067876	-0.813801	-0.044954	-0.128083	0.043949	-0.223163
10	0.187451	-0.004539	-0.022614	-0.762992	-0.037356	0.006170	0.077942	0.228558
11	0.223293	-0.051365	-0.092609	-0.376654	0.114089	-0.255434	0.357501	-0.058653
12	0.019753	-0.126479	0.002498	-0.046414	-0.882606	-0.026061	-0.007759	0.008816
13	-0.205735	0.061704	0.024635	-0.165089	-0.305534	-0.699990	0.051766	-0.162240
14	0.360559	0.016461	-0.238662	-0.107665	0.206469	-0.608981	-0.045977	0.038938
15	0.254338	-0.216288	0.276371	0.080761	0.221725	-0.473969	0.426006	0.079922
16	-0.105076	0.008979	-0.123375	-0.225237	0.042622	0.048440	0.765075	0.067859
17	0.343425	0.011321	0.068871	0.115874	-0.120189	-0.132987	0.639871	-0.351674
18	0.091004	-0.087625	0.014780	-0.032968	0.007047	-0.030843	0.034389	-0.916119

同様に高彩度傾向へ反応した色名はまっ（抹）茶色、れんが（煉瓦）色、水色、チョコレート色など12語みられた。一方、図5-Bのレモン色、さんご（珊瑚）色などは低彩度傾向であり、ピンク、茶色（ブラウン）などは色相の異なった傾向がみられた。しかしこれらよりも高彩度に反応する傾向が目立ち、J I S 値を基準にすると調査用語の11.4%の色名が高彩度の色みに結びついて認識されている。

4.4 生活意識と慣用色名の認識

慣用色名の認識は、J I S 値を基準とすると、反応色に高彩度傾向が生じている。これは年齢差、生活環境、生活意識などの相違が影響をあたえていると思われる。そこで、慣用色名の認識の調査と並列して被調査者の生活意識調査を実施し、18の質問項目の因子分析結果から、探ってみた。表5は抽出された基本的因子、8因子の固有値及び因子名とその寄与率である。表6は各項目におけるバリマックス回転後の因子負荷量である。

第1因子は、日本の風俗、習慣、あるいは外国の文化、手工芸への関心が高く、文化的関心性の因子とした。第2因子は、好きな色に対する明るさ、派手さ、色みへの評価が高く、色彩嗜好性の因子とした。第3因子は、人工的なもの、化学繊維への評価が高く、人工的志向性の因子とした。第4因子は、新しいものへの興味、物事への積極性、季節の移り変わりに対する関心への因子で、積極的活動性の因子とした。第5因子は、性格が慎重派とする評価が高く、慎重性の因子とした。第6因子は、旅行、読書、また政治、経済への動きに対する関心の因子で、情報行動性の因子とした。第7因子は、テレビのコマーシャル、花木への関心から社会的関心性の因子とした。第8因子は、鳥や動物への関心から、動物への関心性の因子とした。第1因子から第8因子までの

表7 J I S 値と顔料色名の比較

色名	JIS 値	顔料の色名※	JIS 値と※比較	反応色
だいだい	5YR6.5/13	2.5YR6.5/14	近似	JIS 値に最も高い反応
肌色	5YR8/5	5YR8/6	近似	JIS 値に最も高い反応
山吹色	10YR7.5/13	10YR7/13	近似	JIS 値に最も高い反応
藍色	2PB3/5	2.5PB3/6	近似	JIS 値に最も高い反応
朱色	6R5.5/14	7.5R5/14	近似	JIS 値に最も高い反応
みかん色	6YR6.5/13	7.5YR7/14	近似	JIS 値に最も高い反応
黄土色	10YR6/7.5	10YR6.5/8	近似	JIS 値に高い反応
桃色	2.5R6.5/8	7.5RP6.5/9	色相赤紫み	JIS 値よりやや赤紫みに反応
焦茶	5YR3/2	5YR3/3	近似	JIS 値よりやや高彩度に反応
水色	6B8/4	7.5B7/8	高彩度	JIS 値より高彩度に反応
茶色	5YR3.5/4	10R3.5/8	高彩度	JIS 値より高彩度に反応
群青色	7.5PB3.5/11	5PB3.5/11	近似	JIS 値より低彩度に反応
レモン色	8Y8/12	9Y8.5/13	近似	JIS 値より低彩度に反応

※べんてるクレヨン・サクラクレパス(20色)、サクラマット水彩(12色)、色名のHW/C

累積寄与率68.9%であった。

また、抽出された8因子それぞれに対する被調査者の因子得点の大きさをもとに慣用色名の認識度と基本的因子との関連についても検討した。それは、8因子それぞれで因子得点の高い被調査者（1.0以上）と低い被調査者（-1.0以下）の反応色をクロス集計し、 χ^2 検定する方法で行った。その結果、特に各因子で有意性は認められなかった。例えば高彩度化が顕著にあらわれたからし色(表4参照)は、からし本来の色より人工着色料の色に反応が示されている。そのため、第3因子（人工的志向性）において、因子得点の高さによる有意差が生じると思われたが、有意性（5%水準）は認められなかった。また、セピア、るり色など反応色域がいまいちな色名では第1因子（文化的関心性）の影響をうけるものと推測されたが、因子得点の差による有意性（5%水準）は認められなかった。

4.5 色みの認識変化とその要因について

4.5.1 J I S 値と顔料の色との比較

被調査者がよく使ったと思われるクレヨン（20色）・クレパス（20色）・水彩（12色）に用いられている色名の中で本調査用語にとりあげているものについて測色し、表7にまとめた。3種類の顔料でいずれにも重複してとりあげられている色名は三属性に顕著な差がない場合が多く、やや差があるものについては平均値をもとめた。図6はそれらの明度、彩度を比較したものである。だいたい、肌色、山吹色、藍色、朱色、みかん色、黄土色はJ I S 値と顔料の色が近似し、また本調査でJ I S 値の近似色票に顕著に反応があった色名でもある。水色、茶色の顔料の色はJ I S 値より高彩度であるが、その色は調査で高く反応を示した色票と、最も似た色みであった。水色や茶色は色名の由来する物の色と顔料の色は異なるが、顔料で使われる色名の色と本調査結果とは一致している。また桃色でもJ I S 値の近似色票は5.4R7.1/8.1(1t2)だが、調査では赤紫の色相に高く反応し、この5.8RP6.7/7.8(1t24)も顔料の色名の色に最も近い色であった。群青色は発色すると、J I S 値の近似色票6.7PB3.9/12.3(v19)に最も近い。しかしクレヨンのみだが発色するクレヨン自体の色は7.5PB2/4(dk18)と低彩度であり、これに近似する色票3.0PB1.7/4.7(dk18)に調査の反応が高かった。レモン色については、J I S 値と顔料の色は近似色であるが、反応色は低彩度に反応が示された。

これらより、子供の時から使用しているクレヨン等にかかれた色名は、色名の学習へとつながっているものと推察され、生活の中で密着した顔料は慣用色名を認識する上で、大きな要因の一つになっていると考えられる。

4.5.2 J I S 値と食品のパッケージ色との比較

カラー印刷技術が高度化した今日、パッケージには巧み

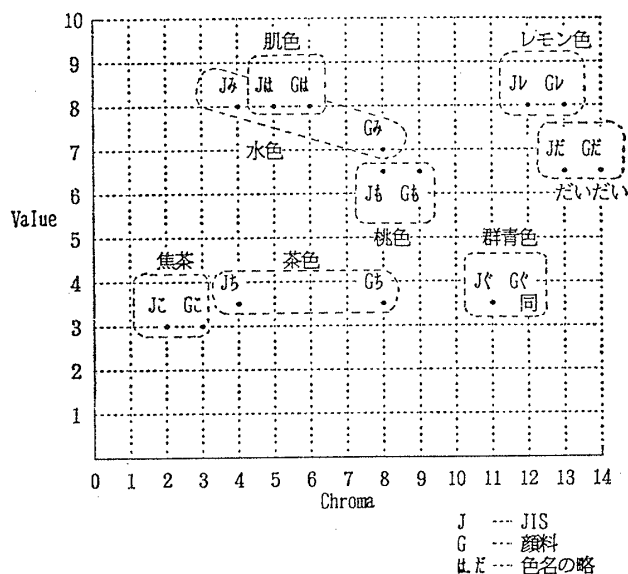


図6 J I S 値と顔料色名の明度彩度比較

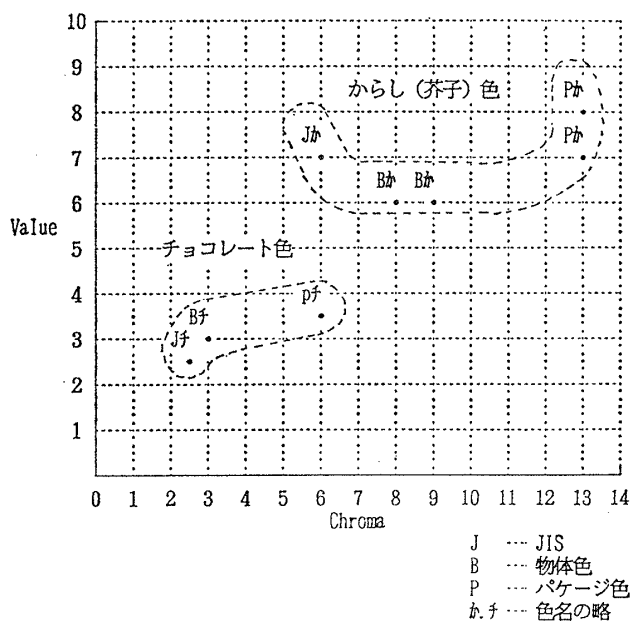


図7 J I S 値と物体色パッケージ色の比較 (1)

に食品の色と関連させたデザインが多くみかけられ、その色が慣用色名の認識に影響を与えていると思われる。

そこで食品の色とそのパッケージの色の測色を行った (図6, 図7)。その結果、からし (芥子) 色、チョコレート色、まっ (抹) 茶色の食品の色は、J I S 値に近似している。しかし、それらのパッケージに使用される色は、食品本来の色より彩度が誇張され高彩度に表現されている。また、色名の認識の調査結果から得られた色域とパッケージで使われている色域とは、反応が類似する結果がみられた。このように豊かにカラー化した今日の生活環境の中において、慣用色名は本来の色より印刷物等の人工的な色との結びつきがみられ、慣用色名の認識にその影響が伺われる。

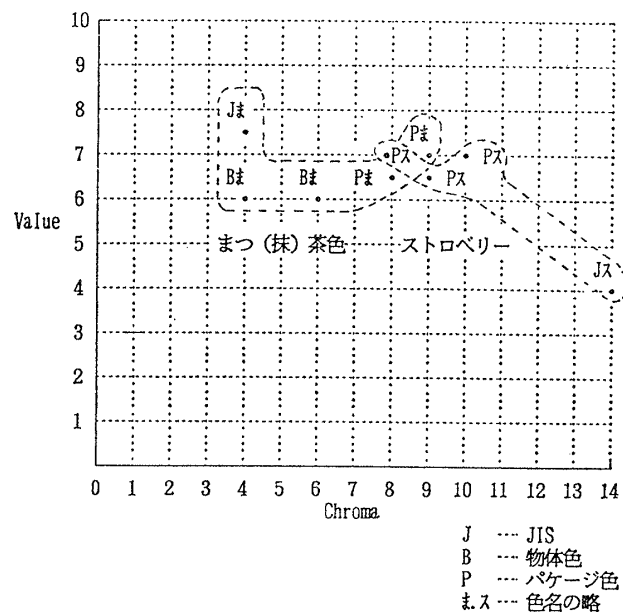


図7 J I S 値と物体色パッケージ色の比較 (2)

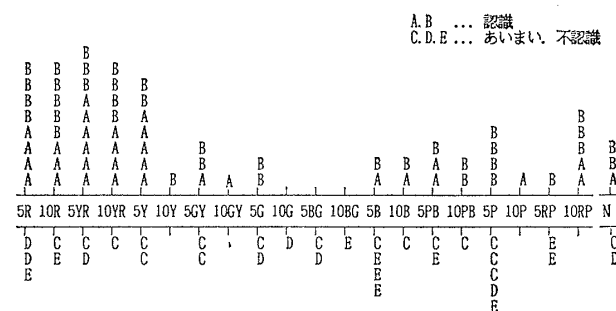


図9 色名の色相分布

4.5.3 慣用色名と記憶色について

慣用色名の由来は動物、植物、鉱物、飲食物、または人名、地名などきわめて多様であるが、慣用色名は物の色を具体的に結びつけ連想する場合が多い^{3),4)}。そのため、具体的事物と「記憶色」とのかかわりがあるのではないかと考えられる。

Hellmig の実験結果に「色相によって記憶に難がある」「全般的には、暖色 (黄から赤) 系統の色は、寒色や紫系統に比較して成績がよかった」⁵⁾とある。

そこで調査用語105語を、20色相に分類し図9にまとめ検討した。認識されている色名 (図1 A・B) のうち、暖色系統 (5 R ~ 10 Y) は41語 (58.6%) と多く、寒色や紫系統 (5 B ~ 10 R P) は20語 (28.6%) と少なく、暖色系統の慣用色名は、記憶されやすい傾向がみられる。一方、あいまい・認識されていない色名 (図1 C・D・E) でも、暖色系統は10語 (29.4%) と少なく、寒色や紫系統は15語 (42.8%) で多かった。寒色や紫系統の色相は、あいまい・認識されていない色名の中においても、暖色系統より記憶が困難であることが伺われる。

また記憶色について Newhall, Burnham & Clark は「記憶色が選択的に把持されるために、その特徴的色彩が強調される現象だ」⁶⁾とある。慣用色名が、色名の由来の物体色に近似する J I S 値より高彩度傾向に反応する傾向が11.4%みられた。これは記憶色が高彩度に誇張されるパッケージの色と結びつき、慣用色名の認識に影響を及ぼす要因の一つとして働いたものと考えられる。

5. まとめ

色名の認識について、慣用色名に対し該当する色票を抽出する調査では、次の①～③に大別できた。

①日常生活の中で用いられる頻度が高く、J I S 近似色に特に高い反応を示したもので、イメージする色域に幅がなく色みをかなり正確に伝達できる色名。

②色名の色を大半の者がイメージするが、色みの色域に幅がみられる色名。

③伝統色名や染色、印刷業界で用いられる色名で、一般には全く色名と色みが結びつかない色名。

また②では J I S 値の近似色とやや異なった色域に反応を示したものがあり、これらは J I S 値より高彩度に反応する傾向があった。

生活意識調査では色名の色域の認識に影響を与える要因について8因子が抽出された。その累積寄与率は68.9%であった。また、各因子における因子得点の高い被調査者と低い被調査者の認識には顕著な差は認められなかった。

色域の認識に影響を与える要因の一つに顔料に用いられる色名が考えられ、調査反応色は顔料の色名に一致する傾向がみられた。一方、印刷技術の高度化した現在、パッケージに使われる色も慣用色名の色域に影響を及ぼすと考えられる。それらは彩度が誇張されており、調査結果もその傾向が伺えた。また、記憶色は寒色系より暖色系の覚えがよく、特徴的色彩が強調されるといわれるが、今回の調査でも記憶色と色名の認識に関連する傾向がみられた。

慣用色名の認識について、今後は今回の研究結果をふまえながら世代間差、性差、または経年変化などの問題を課題としてとりあげていきたいと考えている。

本研究を終わるにあたり、貴重なご助言を賜りました共立女子大学、小林茂雄先生に心から感謝の意を表します。

なお、本研究は平成元年度日本家政学会第41回大会で報告したものに、さらに検討を加えまとめたものである。

参考文献

- 1) 日本工業標準調査会編：物体色の色名 J I S Z 81 02 日本規格協会 (1985)
- 2) 天野節：色名総覧 錦光出版 (1980)

- 3) 尚学図書編：色の手帳 小学館 (1986)
- 4) 福田邦夫：日本の伝統色 読売新聞社 (1987)
- 5) 6) 日本色彩学会編：色彩科学ハンドブック 東京大学出版会 (1980)

(受付：平成元年10月23日)



もり まちこ
盛田真千子

昭和20年7月20日生

昭和41年 文化女大学短期大学部
卒業、文化女子大学助
教授

日本色彩学会、日本家
政学会各会員



かがわ こうこ
香川幸子

昭和27年4月19日生

昭和50年 文化女子大学家政学部
卒業、文化女子大学講
師

日本色彩学会、日本家
政学会各会員